



労働基準監督官

伊吹 真夢

令和4年4月 任官

❁ 労働基準監督官を志望した理由を教えてください

大学3年生の春から夏にかけての4か月間、アルバイト先で賃金未払いがありました。当時、私は労働基準監督署のことを知りませんでしたが、アルバイト先の先輩が労働基準監督署に相談されて、私たちの未払いだった賃金が支払われたということがありました。このことがきっかけで、労働基準監督署の存在や労働基準監督官の仕事を知りました。

当時、私自身就職に対して漠然と考えていた時期で、たまたまそういった出来事があり、自分なりに労働基準監督官の仕事調べていくうちに、この仕事しか考えられなくなりました。

❁ 京都労働局を志望した理由は何ですか？

京都は観光業や伝統産業等、多種多様な産業があり、幅広い業務の経験が出来るという点が魅力ですね。

また、私が大学生の頃、京都労働局を訪問し、業務説明を聞く機会がありました。そこで対応して下さった職員の方がとても気さくで、また、知識も豊富で人を引き込む力が凄く、「この方のような監督官になりたい!」と思ったことも、京都労働局を志望した一つでした。

私の出身は京都府外ですが、通っていた大学も京都で馴染みがありましたし、京都労働局に就職できて良かったと思っています。

❁ 職場の雰囲気はいかがですか？

最高の環境だと感じています。分からないこと等があれば、上司や先輩に相談しやすい雰囲気がありますし、実際に相談すると、手を止めてしっかりこちらを見て説明して頂けます。また、誤って認識したことは理由も含めてしっかりと指導して下さいます。職員としてだけでなく、社会人としての姿勢も勉強させてもらえる環境にあると感じています。

また、同じ職場に同期が一人いますが、情報共有しながらお互い切磋琢磨していますよ。

新人の頃にこのような環境で学べることは、自分の職業人生としてもとても良いことだと考えています。

❁ 任官前に不安に思っていたことはありましたか？

私は法学部ではなかったため、労働関係法令を扱う監督業務に対応していけるか不安はありました。

しかし、実際に入庁してみると、研修も充実していますし、上司や先輩の指導やこれまでの監督業務の経験から、法律や解釈を反復して確認し経験を積み重ねることで、自然と身に付いていくといった実感があります。

法学部出身ではない方や労働法の勉強をしたことがない方でも、熱意があればやっていけると 생각합니다。

❁ 労働基準監督官としての目標を教えてください

目標はカッコいい監督官です。「カッコいい」とは、労働基準監督官として、労働者や事業主に対して、やるべきことや言うべきこと等、「為すべきことをする」という意味です。

監督業務では、先入観を持たず、そこに「人」がいることを常に意識して日々努力していきたいと思っています。